

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣の定着に向け、「家庭学習ががんばろう週間」等を通して内容や方法などの質的改善に取り組んだ。一方、テレビやゲーム、インターネットの視聴等を含めた児童の生活習慣の見直しについて今後も家庭との連携が必要である。 学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、校内研究を核にした授業改善に全校で取り組んだ。さらに、1人1台端末等の効果的活用や個に応じた指導の工夫により、確かな学力向上の取組を推進することが重要である。 縦割り活動や体験活動の充実並びに、人権集会等の取組を通して、学校全体として集団作りを進めることができたことで、児童の自尊感情の伸長や思いやりの心の涵養が図られた。 職員の間外勤務が削減について一定の成果は得られている。さらに業務改善の推進や職員の働き方への意識改革などにつなげる取組を継続することが重要である。 校内の教育相談・生徒指導についての組織体制の充実が図られ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応ができた。
2 学校教育目標	未来を切り拓き、主体的に行動する児童の育成
3 本年度の重点目標	① 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善を図る。 ② 家庭学習の定着と生活習慣の見直しで、基礎的内容の定着と学力向上を図る。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者			
重点取組			達成度（評価）		実施結果					
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）	達成度（評価）	実施結果	評価			意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上とする。	B	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を、「達成できた」「だいたい達成できた」と90%の教員が回答した。10%の職員は、「あまり達成できなかった」と回答しており校内研修の推進が今後さらに必要である。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任			
	○探求的な学習の中で、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する指導の充実	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童90%以上とする。		・授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2を踏まえ、全教科の半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する他、意見の交換で考えを構築する授業に取り組む。 ・1人1台端末の効果的な活用を進める。		・12月に実施したアンケート調査で児童生徒94%及び全保護者が肯定的に回答した。 ・話し合う活動の設定率は上がったが、対話活動が深い学びにつながるよう、話し合いの必然性をもたせ、目的や観点を明確にすることが必要である。		B	・「大小フェスタ」の発表は、とても素晴らしいと感じた。「少年の主張」の発表内容等、大人の私達が聞いても大変感心する内容であった。堂々と発表する姿を見ながら、どの子どもが力をつけてきたことを感じた。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート項目「学校生活が楽しい・友達や地域の人に優しくできる」において、達成率を児童・保護者ともに90%以上とする。	B	・人権集会で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。 ・異学年交流の充実。地域や他校との交流体験・交流学習を進める。 ・道徳科の授業づくりや評価に関する校内研修等を実施する。 ・「ふれあい道徳」を年1回確実に実施する。	B	・道徳に関するアンケートにおいて、全保護者が肯定的な回答であった。一方、「学校生活が楽しい」と回答した児童は、86%であった。 ・6月と12月に、児童の主体的な活動を伴った人権集会。6月の授業参観では、ふれあい道徳を実施した。「こころの実」の取組や縦割り班活動での異学年交流を通して、児童相互の関係がさらに深まった。	B	・大詫間小学校の子どもは、素直で優しい子が多い。上学年と下学年の児童と一緒に遊ぶ遊んでいる。世話をしているようだ。 ・地域の中でも、思いやりの気持ちやお互いを大事にする態度を育てたい。		
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等）について組織的対応ができていると回答した教員95%以上とする。		・毎月、月初め「いじめ・いのちを考える日」の取組として「心のカード」を置く。 ・各学期に「教育相談週間」を設け、きめ細かな児童観察と支援を実施する。 ・「いじめアンケート」を年2回実施。全職員で情報共有を図る。 ・いじめの対応についての研修・会議を年2回以上行う。		A		・学校のいじめ防止対策について全保護者が大変肯定的に回答。さらに全教職員が、いじめの組織的対応が「できている」「ほぼできている」と回答した。 ・6月と11月の教育相談週間後に、校内での情報共有の場を設けた他、8月には職員研修を実施し、いじめの早期対応について全職員で共通理解を図った。	A	・大詫間小学校の子どもは仲が良く、いじめがあるとは思っていない。学校が子どもたちの様子を、丁寧に見守り育てることは今後続けてほしい。 ・家庭や地域も、一緒に子どもを見ていくことが大切だと思う。
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童（6学年）90%以上とする。		・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。		B		・将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（6年）は89%であった。 ・体験活動後の振り返りや交流の中で、自身の働きを肯定的に評価する姿勢を育むことができた。	B	・「目標をもち最後までがんばることができた」という子どもが91%というのは、とても頼もしい。大詫間小学校の子どもたちが、よく努力しているからだと思う。これからも、夢をもってがんばってほしい。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「健康に十分な睡眠は大切であると考え、決められた時刻に就寝できている」と回答した児童85%以上とする。	B	・「早寝・早起き・朝ご飯」等のアンケート調査や家庭訪問や個人懇談を活用し、児童個々の良好な生活習慣形成に向け、保護者の意識啓発と家庭の教育力向上を図る。 ・各学期実施する「家庭学習ががんばろう週間」に合わせて、「生活習慣」の見直しについて保護者の意識化を図る。	B	・12月のアンケート調査で、75%の児童が達成できたと回答。しかし、ゲーム等の視聴時間の長い児童がおり、さらに課題解決への取組が必要。 ・「家庭学習ががんばろう週間」では、前回の反省を基に各学級で取組の周知と家庭への理解・協力を求めた。家庭学習の取組意欲に改善が見られたが、今後も継続的な家庭への協力の呼びかけや、学校での課題の与え方などの工夫が必要である。	B	・子どもたちのゲーム依存やスマホ等の視聴時間については、いろいろな場で問題視されている。 ・保護者アンケートの結果からも、この項目の回答がかなり低い結果となっている。 ・家庭への働きかけなど、学校でも工夫して取り組んでほしい。		
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「安全に関する様々な課題に関心をもっている」「自他の安全な生活を実現しようと考え行動している」と回答した児童を、90%以上とする。		・教科等横断的なカリキュラムマネジメントに基づく計画的な指導を実施する。 ・事前指導・事前学習と事後指導・事後学習の取組を図る。 ・防災の授業を年5回、避難訓練を年3回実践する。（シミュレーションを含む）		A		・「安全に気をつけて生活できている」と回答した児童、「安全についての課題に関心をもっている」と回答した児童は、ともに90%を超えている。 ・「安全教育の年間計画をもとに、児童の防災・安全意識向上に向け指導を行っている」と全職員が回答した。	A	・アンケートの結果から、学校で安全の教育や訓練がしっかり行われていることが分かった。 ・地域としても、防災訓練などの安全対策に、もっと取り組んでいきたいと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守し、毎月の時間外勤務を30時間以下とする。	B	・会議の精選と、資料のデジタル化を確立。ICT活用による業務の効率化を推進する。 ・定時退勤日の設定、出退勤PC横に、平常日の退勤目標時刻を予告・表示する。 ・学校閉庁日を設定する。	B	・時間外勤務の全職員平均は月30.4時間であった。 ・定時退勤日や、目標退勤時刻を意識した働き方が定着してきている。多くの職員が成果を実感できた一方、成果指標の30時間以下に届いておらず、個々の業務改善の取組は継続が重要である。	B	・先生たちが、健康で元気に仕事ができることが子どもたちの成長には欠かせない。そのため、学校の「働き方改革」を進めてほしい。 ・来年度からは、下校時の見守り活動に学校運営協議会委員も協力していきたい。		

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
重点取組			達成度（評価）		実施結果			
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	達成度（評価）	実施結果	評価			意見や提言
○地域・家庭と共に歩む学校づくり	○市民性を育む教育の推進 ○地域や保護者との連携	○「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」「自分は地域の一人である」と回答した児童85%以上とする。	A	・総合的な学習の時間や生活科等と関連させ地域の教育力を生かした学習を仕組む。 ・体験活動等、地域の人と触れ合う場を設定し、自己肯定感を高め、郷土を愛する心を育む。	A	・「地域学習に進んで参加できた」と回答した児童は92%、保護者が100%、「自分は地域の一人である」と回答した児童も89%であった。 ・総合的な学習の時間や生活科の学習活動の中で、地域の人との触れ合いの場を取り入れ、地域や郷土を愛する心を育んだ。	A	・9割の子どもたちが、「地域学習に進んで参加した」とアンケートで答えている。 ・今年度は、公民館での地域の行事に、多くの子どもたちが進んで参加してくれていた。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員90%以上とする。		・毎月の子ども支援全体会議の場を活用し、特別支援教育に関する情報共有や教育のUD化についての研修を実施する。 ・個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいた支援方針や配慮事項の共有を図る。		A		・「個別の子ども支援の充実に関して、全教職員が肯定的に回答した。 ・毎月の子ども支援全体会議」での情報共有を活かし、配慮が必要な児童へ、全校体制での支援の充実を図った。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・家庭学習の定着や生活習慣の見直しに継続して取り組んだ。校内研究においては、一人一台端末を活用した授業改善に取り組むことができた。今後さらに、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善と合わせ、小規模校の良さを生かして個々の児童の理解の程度に応じた丁寧な指導を全職員で共通実践し確かな成果につなげたい。 ・学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、学校行事や各教科の学習の他、キャリア教育など教育活動全般において、児童自身に目標をもたせ、その実現に向けねばり強く取り組ませることで、主体的に学びや表現に向かう意欲や態度を育成したい。 ・会議の精選などの業務改善の他、職員の時間外勤務削減や定時退勤日の定着の取組は、一定の成果が得られている。今後も、働きやすい職場環境づくりの他、時間外勤務の削減に向けた職員一人ひとりの働き方への意識の変化に繋がるような取組を継続したい。
----------------	--